


2 研究の実際

(4) 校内研究の推進・充実のための方策の実施

実践② 視点に沿って協議内容を焦点化することを目指した授業研究会〔B小学校における実践〕

B小学校はこれまで、算数科についての研究授業やその後の授業研究会を中心に校内研究を進めてきましたが、授業の視点に関すること以外に内容が広がるがありました。そこで、今年度は、授業研究会の目的を指導法改善に絞りたいと考えました。そのために、協議内容を焦点化するための手立てを取り、指導法改善を目指しました。

校内研究の年間計画

月	各段階の取組	
4月	P 校内研究のスタート	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題と内容及び年間計画の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の主題を確認するとともに、内容について共通理解を図る。 ・校内研究会を14回予定し、そのうちの6回は研究授業及び授業研究会を実施する。その際、講師招聘を5回行う。
5月 ↓ 11月	D 実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業及び授業研究会に向けた取組 (p) <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場におけるワークショップ型の選定を行い、授業研究会の進め方について説明資料を準備する。 ○研究授業 (d) <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究授業において、本校における「課題解決型学習」の授業の流れを全体で共通理解するために研究主任が提案授業を実施する。 ・2回目以降は、授業の視点に基づいた研究授業を実施する。 ○授業研究会 (c) <ul style="list-style-type: none"> ・授業の視点に基づいた協議を、ワークショップ型で行う。 ・教師の意見を基に、協議方法の改善や研究会後の日々の教育実践を行うための事後アンケートを行う。 ○日々の教育実践 (a) <ul style="list-style-type: none"> ・協議した内容を基に、実践計画に沿った実践を行う。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;">※ p d c a を繰り返す。</div>
12月 ↓ 2月	C 評価	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の校内研究の取組の振り返りと改善点についての協議 ○まとめの作成
3月	A 改善	○次年度に向けた校内研究推進計画の作成

意識調査

校内研究に関する意識調査を、実践前の7月に第1回、実践後の10月に第2回として行いました。

第1回意識調査の中の質問項目I-2-⑤「成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか。」ということについて、「そう思う」と答えた教師は40.0%、「どちらかといえばそう思う」と答えた教師は56.7%、「どちらかといえばそう思わない」と答えた教師は3.3%でした。共通理解が図られていると肯定している教師が96.7%であったものの、積極的な肯定はそのうちの半数に満たないことが課題であると捉えました。

活用したワークショップ型とそのねらい

第1回意識調査で挙げた課題を解決するために、以下のワークショップ型を選定しました。

○指導案拡大法

協議内容が焦点化するように、授業の気付きを記入した付箋を拡大指導案に貼って確認しながらグループで協議しました。拡大した指導案は各グループに1枚ずつ準備しました。

実践に当たって工夫した点

○研究主題を基に、授業の視点を3つ提示しました。その3つの視点に沿って研究授業と授業研究会を行うことで、協議内容の焦点化を図りました。

授業の視点

- ① 既習の学習と学びをつなぐ「活用」について
- ② 友達と学びをつなぐ「言語化」について
- ③ 学習意欲と活用力をつける手立てについて


事前の取組

「本研究で提案する事前の取組例」に沿って行いました。

「本研究で提案する事前の取組例」はこちら

授業研究会の実際

～ 第3回全校授業研究会の取組

活動	分	活動の具体
1 開会 2 授業研究会の進行確認	5	・ 授業研究会の進行について確認した。  授業研究会の進行の確認
3 授業者の自評・学年より		
4 指導案拡大法によるグループ協議	30	・ グループ協議を始める前に留意点について確認した。 <div data-bbox="603 1727 1417 1928" style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"><h4 style="text-align: center; background-color: #90EE90; display: inline-block;">グループ協議の留意点</h4><ol style="list-style-type: none">① 研究授業を振り返りながら、授業の視点に沿って話し合う。② 意見を自主的に発言する。</div>

グループ協議 (30分)

- ・低学年担当(10人)、中学年担当(11人)、高学年担当(12人)の3グループに分かれた。
- ・授業参観時に記入した4色の付箋を、拡大指導案の授業の視点ごとに貼りながら、手立ての有効性について協議した。
(ピンク：良い点、黄：改善点、青：疑問点、緑：その他)

どのような趣旨で意見を述べているか視覚的に把握するために、使う付箋を4色に分けます。



付箋の記入の様子

ファシリテーターの先生は、意見が出やすい雰囲気をつくり、話し合いをまとめたりします。



ファシリテーターの役割

低・中・高学年のグループ編成にすると、児童の発達段階や単元の系統性などについても話し合うことができます。



授業の気づきを記入した付箋を拡大指導案に貼って協議すると、授業の流れに沿って話し合うことができ、内容が焦点化されます。



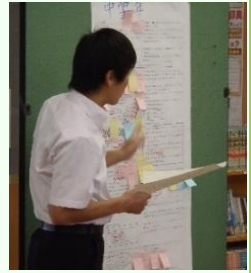
グループ協議の様子

5 全体協議

10

全体協議 (10分)

- ・協議に用いた拡大指導案（4色の付箋が貼られたもの）を全体から見える場所に掲示した。
- ・掲示した拡大指導案を基に、各グループより授業の視点について協議した内容を全体に報告した。（1グループ3分以内）



拡大指導案を用いての全体発表

6 指導助言

30

指導助言 (30分)

- ・講師が、全体会で出された各グループからの疑問に答えたり、今回の授業に対する指導助言を行ったりした。

7 事後アンケート

- ・授業研究会の改善を図るために、授業研究会の進め方についてのアンケートを記入した。

今回の研究会についての手立てについてご意見をお聞かせ下さい。

- ・7-7グループ型の演習が回を重ねる毎に充実しているように、今回は各グループからいろいろな意見も考えも来りました。
- ・良い点も数多くある中、その中でも、もっと改善の点なども出すにも、研修が深まると思います。
- ・拡大した指導案に貼ったり書を入れるだけでなく、活用紙などもあれば、図や表なども書けるので説明もより分かりやすくなりそうです。



記入された事後アンケート

8 閉会

事後の取組

研究会終了後、研究会の協議を踏まえ、教師全員がワークシートを用いて今後の実践計画を立てるようになりました。

B小学校が定めた学習過程に沿って計画を立てています。

つかむ	
見通し	考え方の見通しだけでなく、方法の見通しも、全て見せるのではなく、考えさせる見通し(イキダシ)
調べる	思考させる時間を十分に確保する。
練り合う	子どもたちの言葉で、考えさせること。リレー方式、友だちの考えを説明を取っ入れ。
まとめる	まとめの前に、もう一度、「ほわいカ」に立ち戻る。今のポイントをおさえたまとめ、☁の活用
使う	

*個人や学年で日々の授業にいかせることや次につながることを学習過程で計画して実践してみましょう。*書ける分がいいですよ。

《1か月間に取り組もうと思っていること、または、再確認したこと》

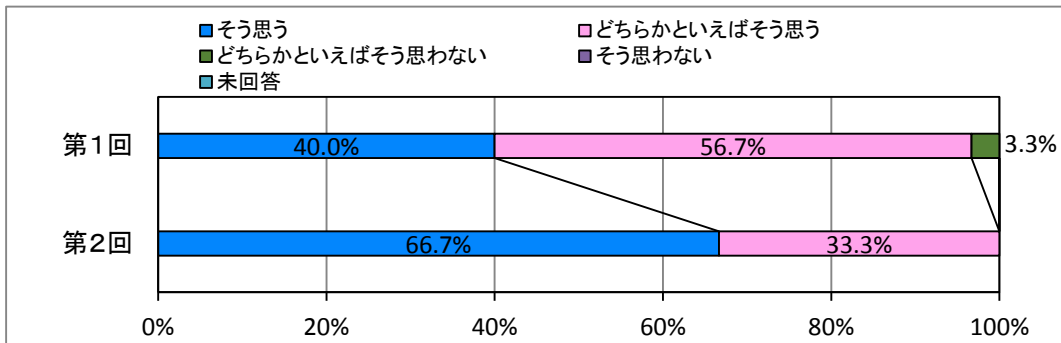
2人2タイム・みんな2タイムで、自分の考えを説明させるため、人前で話すこと、立ち方、「まず、つぎに」などの言葉を身につける。
☒ 式ことばなどに関連付けて説明できるようにしていく

実践計画を記入したワークシート

実践を終えて

実践後の第2回意識調査の結果は、以下のようになりました。

I-2-⑤「成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか。」について



I-2-⑤「成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか。」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回96.7%、第2回100.0%となり、肯定的な回答が100%となりました。特に、「そう思う」と回答した教師の割合は、26.7%増加しました。協議した内容の共通理解が図られたことに関連する記述内容は、以下のとおりです。

・拡大した指導案に色分けした付箋を貼る方法は、授業の流れに沿って協議ができ、付箋によって視点ごとの発言内容が視覚化されてよい。

以上の結果から、共通理解を図るために視点をもって研究授業を参観し、拡大指導案で振り返りながら視点に基づいた協議をすることで、協議内容が焦点化されたと考えます。今後は、グループで話し合った内容について全体で協議する時間を十分に確保することで、さらに協議内容が深まると考えます。